

地域を支える高齢者福祉施設・社会福祉法人と都民を結ぶ

アクティブ福祉

第47
2021.12

社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 機関誌



養護老人ホーム「浅川ホーム」 クリスマス会の飾付けをご利用者と共に



暖炉のある特養「五日市ホーム」
ご家族と久しぶりの面会に
溢れる笑顔

P2-4

特集

〈対談企画〉

今後の活動方針と

全国と東京の連携のビジョン

P5-6

アクティブ福祉in東京'21結果報告
口演発表審査結果

P7

デジタル推進委員会の活動について
実態調査の結果を踏まえて

P8

新時代旋風
新時代委員会での取り組み

P13

東京ケアリーダーズ活動紹介
活動報告

9... ● 専門委員会リレートーク
第14回:経営検討委員会

10... ● 養護分科会トピックス

11... ● 軽費分科会トピックス

12... ● センター分科会トピックス

14... ● 職員研修会トピックス

15... ● 私の心に残るエピソード

15... ● 編集後記



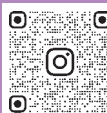
Facebook
更新中!



高齢協
ウェブサイト



Instagram



HOUREIHYOU



高齢協
会長
@koureikyo



YouTube



東社協
東京都高齢者
福祉施設
協議会



〈対談企画〉今後の活動方針と 全国と東京の連携のビジョン

東京都高齢者福祉施設協議会(以下「高齢協」では4月の役員改選で田中雅英が会長に就任しました。田中会長は6月の全国老人福祉施設協議会(以下「全国老施協」)役員改選にて、全国老施協副会長にも就任しています。今回の特集では全国老施協の平石朗会長と田中会長の対談を通じて、今後の活動の方針と全国と東京の連携のビジョンについてお伝えしていきます。

聞き手:町亞聖(フリーアナウンサー)

※対談は10月27日に実施されました。発言は当時の状況に基づきます。

平石朗 全国老人福祉施設協議会会長、社会福祉法人尾道さつき会理事長。岡山大学文学部を卒業後、尾道さつき会を設立後に広島県老人福祉施設協議会会長を経て、2019年より現職。

田中雅英 東京都高齢者福祉施設協議会会長、全国老人福祉施設協議会副会長。社会福祉法人三交会、大三島育徳会理事長。早稲田大学商学部を卒業後、損害保険会社、不動産会社、大三島育徳会設立を経て、2021年より現職。社会福祉学博士。

町亞聖 フリーアナウンサー、東京都高齢者福祉施設協議会アンバサダー。

コロナ禍での業務と生活の変化 オンラインを活用した取り組みの推進

町 新型コロナウイルス(以下コロナ)により起こった変化についてお聞かせください。

平石 2019年6月の会長就任時の総会時、東京での会議開催時の参加者の移動負担軽減のために、オンライン会議の活用を提案していました。そうした流れの中、翌年3月からコロナの感染拡大が発生。移動が難しくなり、6月にはすべての委員会をオンライン化するよう発令しました。

コロナ禍は苦難もありましたが、業界全体の改革を促すきっかけにもなりました。また、ICTやデジタルを活用により、ワークライフバランスをとりやすくなったと感じています。

田中 東京都では、都知事がデジタルトランスフォーメーションを強く推進しています。ICTについて業界全体で学び、デジタル化が遅れがちな介護業界を変革していこうという機運が高まっています。



▲ 平石 朗氏

都市部の知見を全国へ 日本の縮図・東京での取り組みの共有

町 今期、全国老施協の副会長を東京都から選出された狙いをお聞かせください。

平石 最も意識していたことは都市部の対策です。日本で最大人口をほこる東京都の直近の特養の組織率(全国老施協会員施設÷全施設)は28%と低く、改善の必要があります。また、地方に比べ人口の減少が緩やかな東京都および都市部の対策をしなければ、全国老施協としての先行きも危ぶまれます。

そのため大都市東京の状況を把握し、全国老施協にも行政にもしっかりと意見を伝えられる方に副会長として動いていただきたいと考え、この度田中会長に依頼しました。

町 田中会長、全国老施協との連携や、副会長としての抱負についてお聞かせください。

田中 私も日ごろから全国老施協と高齢協の協力関係はさらに深めたいと考えていましたので、平石会長からの副会長就任の打診の電話を頂いた際、二つ返事でお受けしました。

介護報酬の地域区分は、23区の1級地(*)からその他地域まですべての区分が都内に存在しています。島しょ部、中山間部もあるため、まるで日本の縮図のようです。介護報酬を都内で取り合うというも切ない話です。こうした問題を根本から解決し、日本の介護・福祉を向上させられるよう、全国老施協とともに全力で取り組んでいきたいと思っています。

※級地:地域間における人件費の差を考慮し、介護保険費用の配分を調整するために定められた地域の区分

平石 東京都内でもそれぞれの地域特性に応じた課題を解決する必要があります。また、人材不足の問題も、東京は難しい状況です。最先端で課題と向き合う東京の知見を地方で展開できればと思います。

町 今後の連携の展望はいかがでしょうか。

平石 全国老施協はおよそ1万1千の会員で構成され、それぞれの施設に利用者と職員がおり、生活を支えるためにも必要不可欠です。その維持のためには、個々の施設・職員の声を組織が結集して伝えなければなりません。



▲ 田中 雅英氏

また、働く方がこの仕事をしてよかったと感じられる給与の保証も必要です。そのために、経営の合理化や近代化が求められてくるでしょう。こうした点でも、企業での勤務経験もある田中会長の見識をぜひ取り入れたいと思います。

また、令和4年度から施行される社会福祉連携推進法人制度(*)は全国老施協でも推進していきたいと考えています。

※社会福祉連携推進法人制度

社会福祉法人等が社員となり、福祉・介護人材の確保や、法人の経営基盤の強化、地域共生の取組の推進などの面で、法人間の連携・協働を図るための取組等を行う新たな法人制度。

社会的使命を果たし、地域へ貢献する事業の展開を

町 給与部分も含め、介護の仕事の魅力を強く発信していくことが必要ですね。

田中 高齢協の広報戦略推進委員会でもイベントやSNSなども含め様々な発信をしていますが、一方で、法人の安定性、将来性、成長性を求職者に具体的に示す必要があります。その一つが地域への社会貢献だと私



▲ 町 亞聖氏

は考えます。株式会社の最大のステークホルダー(利害関係者)は株主です。一方、社会福祉法人にとってのそれは、地域だと考えているからです。そして、地域に利益を還元するためには、経営が盤石でなければなりません。社会保障費は抑制傾向で、今後経営には工夫が求められます。経営の安定のためには、法人の大規模化や社会福祉連携推進法人への参加も選択肢となります。

また、国からは介護保険外の事業の示唆もありましたので、そこで収益を上げることも視野に入れるべきかもしれません。ファンドレイジング(民間非営利団体が活動資金を個人・法人・政府から集めること)も必要となってくるでしょう。もちろん、社会福祉法

人の本質であるセーフティーネットとしての役割を果たすことが前提です。

町 取材をしていると、介護現場での厳しい現実を目の当たりにします。そうしたところの改革も全国的に推進する必要があるのではないかと思います。

平石 全国老施協では今年度の重点事項の一つとして介護現場の革新を掲げ、その一環として「介護ICT実証モデル事業」を実施します。関東ブロックでは東京の施設が選出されました。ICTを活用した介護現場の革新においても、リーダーとしての役割を東京都に期待しています。

こうした事業のから全国の施設の発展を促し、若い人にも介護を魅力ある面白い仕事だと思われるようにしたいと思います。

ビッグデータを活用し、介護の質の底上げを

町 今回の介護報酬改定の総括と、今後の展望をお聞かせください。

平石 今回の改定率は一定の成果があったと捉えています。大きな変化のあった科学的介護推進体制加算(LIFE加算(*))については様々な意見も出ていますが、ビッグデータによるエビデンスに基づいた介護が必要な時代であるのは間違いありません。しかし、新システムの導入は現場の負担になります。全国老施協では、LIFEが現状に合っているか精査し、収集されたビッグデータをどのように生かすか、今後2年間で検証し、次の報酬改定での提案に活かしていきます。

※LIFE加算:科学的介護情報システム(LIFE)へのデータ提出とフィードバック情報を活用することによるケアの質の向上を図る取り組みを評価する加算制度

田中 加算ではそれを取るために新たな負担が生まれる面もありますので、次期改定の際には基本報酬を増やしていただくことを切に望みます。



▲ 対談の様子



▲ 集合写真(左から町亞聖氏、平石朗氏、田中雅英氏、水野敬生氏(情報広報室長))

平石 国は専門性の高い分野を評価する意向ですので、加算の流れは避けられないと思います。しかし、全国老協としては、介護の質を向上し、すべての施設が加算を得られることをスタンダードにすることで、現状の加算制度を基本報酬に組み込んでもらえるよう働きかけたいと考えています。

町 介護の力と業界の知見は介護保険外サービスや高齢者以外の分野に生かしていけるとと思います。その取

り組みを示すことが、成長性がある、魅力がある分野としての介護業界の発信につながると思います。

田中 私の法人では知的障がい者の施設を経営しているノウハウを生かして、高齢者施設でも障がい者ケアにも取り組んでいます。人口減により、高齢者施設のベッドはいずれ空くかもしれません。今後は高齢者に限らず福祉全般を担い、誰もが安心して利用できる場所を作る取り組みも必要となるでしょう。

平石 そうですね。そうなれば職員は、自身がどの分野に向いているか選択できます。その後別の分野を経験すれば、仕事の幅も広がります。私たちはそうした環境を作ることで、職場の魅力を出せますので、様々な分野に取り組むことは必要だと思います。

町 これからの社会福祉では、様々な分野の融合が求められますね。お話を伺う中で、お二人の考え方は近いと感じましたので、今後全国と東京の連携もより進んでいくと思いました。

本日はありがとうございました。

■記録・編集 東京新聞 木下 聡文

TOPICS 会長

11月18日「青葉台さくら苑」に後藤厚生労働大臣が視察に来られました。デイサービス、面会ルーム、特養フロアを見学後、職員との車座会議を行いました。介護職の給与や職場環境、施設と個人のコロナ感染対策の苦勞、家族との面会、大臣への要望などについて熱心にやり取りをしました。

大臣が常に親しみがわくように接していただけたので、職員は率直な意見を伝えることができました。

田中 雅英



▲ 視察の様子



▲ 職員との車座会議の様子

第16回高齢者福祉実践・研究大会 アクティブ福祉in東京'21 結果報告

介護現場での取り組みや研究発表から、ともに学び専門性を高め合い、東京の高齢者福祉介護の質の底上げを目指すことを目的に、今年度は初めてオンライン配信により開催しました。

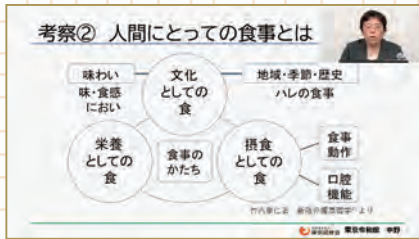
口演発表の審査は学識経験者や福祉・介護関係団体関係者が行い、各テーマで最も点数の高かったものを優秀賞として、1題ずつ表彰します。表彰式は1月に行い、その様子は機関誌やホームページに掲載予定です。

テーマA

食事・栄養・口腔ケア／医療・看取り介護

🏆 優秀賞

施設名	東京令和館 中野
発表者氏名	松山貴恵さん
主 題	常食がもたらす入居者の食事の楽しみへの効果と、さらなる食生活への改善



▲ 東京令和館の発表、配信の様子

第2位 白十字ホーム／君塚隼さん／
感染症拡大予防のためのシミュレーション

第3位 砧ホーム／小谷野祐樹さん／
褥瘡ケアにおける経過記録のデジタル化による多職種連携にかかる効果について

テーマB

リハビリ・アクティビティ・レクリエーション／日常ケア／認知症ケア

🏆 優秀賞

施設名	長洲園
発表者氏名	鈴木謙太郎さん、力丸仁美さん
主 題	特養で身寄りがない利用者への在宅復帰支援



▲ 長洲園の発表、配信の様子

第2位 白十字ホーム／上村信吾さん／
「入れてもらった」ではなく「自分で入れた」と思える入浴支援を目指して

第3位 小松原園／高津智広さん／
傾聴専門・介護補助員「さくら」の導入による認知症ケアへの効果について

テーマC

経営・リスクマネジメント・品質・人材確保・離職防止

🏆 優秀賞

施設名	神明園
発表者氏名	井上祐介さん
主 題	事業継続計画の実行性を高める取り組み



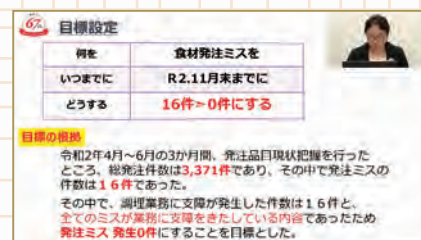
▲ 神明園の発表、配信の様子

テーマD

福祉用具・介護ロボット・ICT・IoT・AI

🏆 優秀賞

施設名	ケアポート板橋
発表者氏名	隅田素子さん
主 題	厨房における食材発注ミスの撲滅



▲ ケアポート板橋の発表、配信の様子

テーマC

経営・リスクマネジメント・品質・人材確保・離職防止

第2位 砧ホーム／遠藤拓也さん／
持ち上げない介護における介護ロボットや
福祉用具の技術確認に伴う働きやすさへの
効果について

第3位 至誠キートスデイサービスセンター／
今井紗綾さん、齋藤久美子さん／
安全確認の具体的な行動指針をドライバー
が実践することで、車両事故は確実に減ら
すことができる

テーマD

福祉用具・介護ロボット・ICT・IoT・AI

第2位 砧ホーム／元山大輔さん／
インカムの活用が叶える「働きやすさ」と
「サービスの質」の両立

第3位 神明園／星野浩基さん／
アシストスーツの使用効果検証により機器
使用の定着を図る取り組み

発表者の皆様、ご視聴いただいた皆様、大会開催にご協力いただきました関係者の皆様、本当にありがとうございました。

●事前収録

2日間、2会場で合計35題の口演発表の収録を行いました。



▶10月6日(水) 飯田橋会場での収録の様子



▶10月7日(木) 立川会場での収録の様子

●配信

10月29日(金)から11月26日(金)までの約1か月間配信しました。

読者モニター からのご意見 (一部抜粋)

読者モニターの皆様からいただいた
ご意見を紹介します!

- ✔ 特集については、今知りたいコロナ禍の活動・工夫が分かりやすく掲載されていた。
- ✔ 「特集」や「東京ケアリーダーズが行くうわさの施設」について、字数が多く、説明が長いと感じた。
- ✔ 企画ごとに紙面デザインが変更されており、タイトルだけでなくパッと見の視覚から切り替えができる。
- ✔ 「東京ケアリーダーズが行くうわさの施設」の動画案内URLについて、紙媒体のため、URLではなくQRコードで表示した方がよいのではないかと。
- ✔ 実用性があり、ためになる記事が多かった。



いただいたご意見はよりよい機関誌発行のために活かしてまいります。

デジタル推進委員会の活動について

デジタル推進委員会委員長
 社会福祉法人友愛十字会 砧ホーム
 施設長 すずき けんた **鈴木 健太**



デジタル推進委員会は、昨年度まで施設管理検討委員会において活動していたICT・介護ロボット等活用に関するWTが独立して、今年度新たに設置された特別委員会です。介護ロボットやICT機器等の活用を推進することで会員施設・事業所（以下、施設）における介護現場改革を後押しし、厳しさを増し続ける人材不足にも怯まない持続可能な福祉・介護の実現に向けて取り組みます。デジタル化の推進においては、先進的な事例に学びながらもそれぞれの施設の実態や実情に応じた機器の導入・活用が大切です。先進的な施設もこれからの施設も一緒になって東京の高齢者福祉・介護の現場を働きやすい職場、働き甲斐のある魅力ある職場に変えていける様な委員会の運営に努めて参りたいと思いますので、会員施設の皆様の積極的なご参画をお願い申し上げます。

—実態調査の結果を踏まえて—

令和3年9～10月に実施しました「デジタル機器（介護ロボット・ICT機器）等の導入及び活用に関する実態調査」の結果を以下活動につなげます。

- ①高齢協常任委員会に、東京都の「介護保険施設等におけるデジタル環境等整備促進事業」に係る補助金の見直しについて提言いたしました。
- ②会員施設におけるデジタル機器の活用事例報告をもとにしたシンポジウム「(仮題) デジタルシンポジウムin東京」を令和4年2月に開催いたします。
- ③本実態調査の結果について、令和4年2月の総会にて報告させていただきます。



新時代旋風

社会福祉法人浄栄会 徳寿園
園長 いわむら 岩村 ともたか 友敬

新時代の高齢者福祉デザイン検討委員会では、「学びの場・情報共有」としての独自企画において、色々なアイデアの中から2つの研修テーマを決めました。

①学生に選ばれる業界になるためには何が必要か

委員会の中でも、昨今の人材不足に課題を感じているという話しが多く出ました。その中で、若い人材の確保、育成、定着をするための取組みを工夫している施設から話しを聞けることになりました。

学生のうちに福祉の仕事に興味をもってもらい、職業選択の1つになるきっかけ作りをするためにはどうしたらよいか、離職率を低く保つ工夫等、他の施設の取組みを伺えるいい機会になるのではないかと楽しみにしています。

この研修が、情報共有の場、もしくは取組みへの参考になればと思い、12月に委員会の中で事例をもとに研修を行うことになりました。

②異業種交流

コロナ禍で延期となっておりました異業種交流の開催を予定しています。いくつか候補は出たのですが時間の関係もあり、お呼びする業種の方は調整中となっています。

専門委員会リレートーク!

東京都高齢者福祉施設協議会内の専門委員会(※)に所属する委員から、委員会の活動内容や、ご自身の法人・施設・事業所でのホットな話題、新しい取り組み、他施設に教えたい情報を伝えるページです。

14回目
経営検討
委員会

経営検討委員長

社会福祉法人恵比寿会 フェローホームズ
統括施設長 **森山 善弘**

第21回東京都特別養護老人ホーム実態調査へのご協力ありがとうございました。

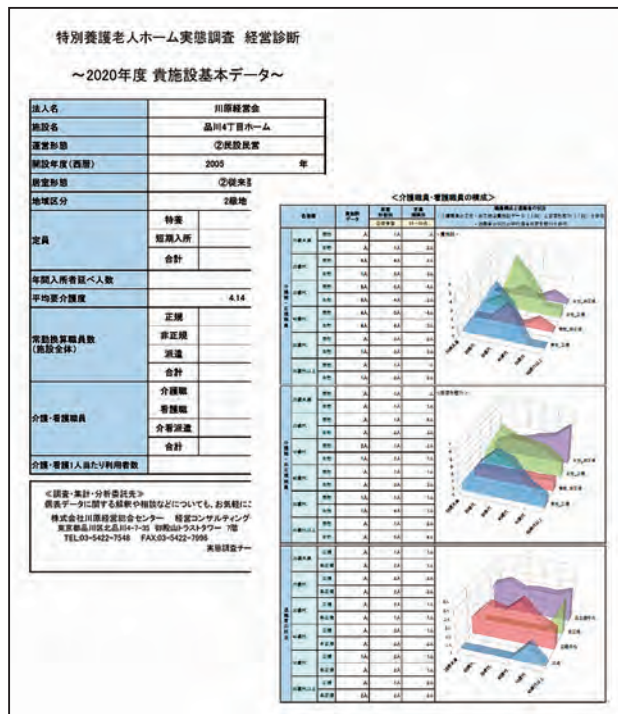
コロナウィルスが昨年度以上に感染拡大のさなか、調査会社の変更に伴う様式の変更や制度改定の対応と、担当された職員の皆様には大変なご苦勞をおかけいたしました、皆様のご協力のおかげで、回収率は62.3%となり、大変精度の高い分析資料となりました。

財務結果を見ると、収支差額率が平均2.13%、都内特養の約4割が赤字の決算結果となっております。

本年度の調査委託会社は、(株)川原経営総合センターに変更いたしました。これまでの様式とは異なりますが、新しい様式で個票と報告書を皆様のお手元にお届けしました。

年度内にフォローアップ研修も計画しておりますので、ぜひご参加ください。

報告書内容は、制度検討委員会と人材対策委員会のデータをもとに分析している箇所や地域ブロック、地域区分に分けてデータをまとめた報告事項も新たに加えられております。いずれのデータも、例年よりも自施設の立ち位置や現状把握を細かく分析することに役立つような内容になっております。次年度の事業計画策定にご活用いただければ幸いです。



今年度配布の個票のイメージ

※制度検討委員会、経営検討委員会、施設管理検討委員会、利用者支援検討委員会、人材対策委員会、災害対策検討委員会の6つの委員会の総称。各委員会には都内各地域の高齢者福祉施設より20名前後が委員として集まり、それぞれのテーマに沿った協議や研修会の開催等を行っています。

「盲養護老人ホームの役割と使命」

● 聖明園曙荘 施設長
ほんま あきお
本間 昭雄



当法人は1955年に今日でいう在宅サービスの事業を開始。1964年には盲人専用の軽費老人ホームを開設し老人福祉に参入。続いて1965年には盲養護老人ホーム（以下「盲養護」と略記）を開設し今日に至っております。

2000年には介護保険制度が導入され、盲養護を取り巻く環境も大きく変化しました。さらに2006年には養護老人ホームの措置要件から「身体上又は精神上」という文言が外され、同じころに行われた三位一体の改革と相まって、今日に至るまで措置控えとも言える状況が見られております。これに対し2019年「厚労省通知（老高発0702第1号）」が発せられ、養護老人ホームにおける自由契約の促進に関する通知が各自治体に発せられました。この要望は、旧厚生省当時から行ってきたところであります。

これを受けて当法人でも自由契約について検討を重ね、今年10月に骨子がまとまりました。内容としては、利用料は消費税込20万円、身元保証人（2親等以内2名）がおられない場合は施設長が代行、但しこの場合は任意後見契約が必要、有料老人ホームなどの関連法規に準じた契約内容、サービスは有料老人ホームと措置制度の中間をとった内容となっています。現在ある措置制度は行き場のない盲老人にとって最後の砦であり、措置制度との間でバランスをとった契約入所の運用を行っていきたいと思っております。



聖明園曙荘の外観



居室の様子

Withコロナにおける活動

● 社会福祉法人大和会 愛生苑ケアハウス 施設長
ご かし
五 箇 忠 司

愛生苑ケアハウスは、特別養護老人ホーム愛生苑と併設された、定員16名の軽費老人ホームです。約1年半、ケアハウスにおいてもデイサービスや訪問リハビリ、家族面会等を一時的に制限せざる負えない状況となりました。東京都の感染者減少に伴い、感染予防に努めながら少しずつ活動範囲を広げていかななくてはなりません。

●つながる

コロナ禍では運動不足解消のため、動画を見ながら体操を行っていましたが、一方通行の活動となりがちで継続性やモチベーションも高まらず、今後どのように行っていくのか課題がありました。

そんな中、ボランティアセンターの方に現状を相談、コロナ禍で訪問のボランティアが出来なくなってしまった体操クラブの方々とzoomでのマッチングの案が出ました。

動画を見るだけの体操ではなく、コミュニケーションを取りながらの体操は、ケアハウスの方々の楽しみの一つとなり、運動不足の解消にもつながっていると感じています。

現在では体操だけではなく、ピアノ演奏もオンラインで楽しまれています。



コミュニケーションを取りながら体操をする様子



仮装した職員とご利用者
※写真撮影時は一時的にマスクを外しています

●リアルも大切に

10月末には施設内で久しぶりの1日イベント「ハロウィンパーティー」を行いました。

WEBでは味わえない、リアルでのライブイベントです。職員が仮装をし4組の演目を披露し、久しぶりに盛大で楽しいイベントを実施することができました。

今後もオンラインの活用を継続し、感染対策を実施の上リアルでのイベントも実施してゆきたいと思っています。



ハロウィンパーティー
※写真撮影時は一時的にマスクを外しています

● 支援センター分会長 東村山市北部地域包括支援センター
センター長 すずき ひるゆき 鈴木 博之

介護保険がスタートした時に言われた“介護の社会化”という言葉、今から考えれば制度だけではなく“まちぐるみで支える”ということだったのかもしれませんが。

東村山では5か所のセンターに二層の生活支援コーディネーターが配置され、ここ数年、自治会や町会の皆様の力をお借りし、住民の困りごとについて調査を行っています。

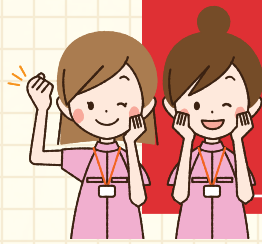
直近では、担当圏域の都営住宅で本年8月中旬から9月中旬にかけて実施し、回収率 41.1%（回収37通/配布90世帯） 年齢 60歳以上（70.0%） 世帯構成 独り暮らし（43.2%）といった状況でした。

回答された皆様の記述の中からは困りごとについて（ほんの一部ですが）、
「〇ごみ収集日に出せなかったものが玄関口にたまってしまうので、収集時間がもう1時間程度遅いと良い。〇店が遠くて大変、店が近くにあまりないので困っています。〇気をつけているが栄養バランスが気になっている。〇年をとっても一人でいることが不安。」といった様々なご意見がありました。

結果の分析も兼ねて、「市内の大手スーパーが移動販売の実施を計画している」という情報を得たことから、担当の方と自治会長さん、職員を含め、お話をお聞きする機会を設けました。自治会内のコンセンサスを得る、東京都（都営のため）の許可をとるといった多くハードルを越える必要がありますが、専門機関と住民の方々が一緒になって“まちとくらし”について考える、これこそ協働のまちづくりの一步なんだなあ、と実感しました。



大手スーパーの担当者にお話をお聞きしている様子



東京ケアリーダーズ 活動紹介



東京ケアリーダーズとは？

東京都内の高齢者福祉施設・事業所で働く若手介護職員によるユニット「東京ケアリーダーズ」。メンバー全員が特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設で働く現役の介護福祉士です。自分たちの言葉で「介護の仕事の魅力」を伝えることを目的に活動しています。



「息子の顔が良く見えない」

白十字ホーム 介護福祉士 ひろせ 広瀬 ふみか 史夏

私たちの生活様式が大きく変動し、日常的にマスクやフェイスシールドを使用する日々が来るとは夢にも思いませんでした。新型コロナウイルスの猛威を受け、東京都には合計4回の緊急事態宣言が発動されました。対人援助を行う介護士にとって、ご家族・ご利用者との接し方等模索する日々がはじまりました。

私の働く施設でも、コロナ禍であるがゆえに直接面会を中止し、窓越しでの面会へと変更しました。面会中もマスクの着用をお願いしているため、とあるご利用者より「あれ、息子？顔が良く見えないねえ」と呟かれました。その言葉を聞き、ご利用者・ご家族同士をどう繋げていくかが大きな課題であるとともに、取り組むべき事であると実感しました。そこで、ご家族からご利用者へお手紙を書いて頂いたり、ご利用者の普段過ごされている様子など、SNSを通じて発信し、ZOOMを使って行事の様子を配信しました。手探りの中での最大限の努力ができたのではないかと思います。

私が参加する東京ケアリーダーズでは、介護の魅力を発信すべく、色んな事に挑戦しようとする若者が集まっています。私たちより何十年と長く生きて来られた人生の大先輩と過ごす日々やサポートをする上での大変な事、楽しい事、壁にぶちあたったこと、嬉しかったことなど沢山の「魅力」が介護には詰まっていると私は思います。

そんな「介護の魅力」を多くの人に知ってもらうべく、多くの時間と多大なる協力を得て、冊子の作成を行っています。色んな施設職員が集まって協力した結果として、今回の冊子が初めて出来上がります。【介護の魅力を発信する】という大きなテーマを含む今回の冊子を、東京ケアリーダーズの一員として作成に関われたことに大きな喜びを感じています。完成まであとわずかです。皆様の心に響きますように。



11月9日ケアリーダーズ定例研修会の様子

生活相談員研修委員会について

● 生活相談員研修委員会 委員長
社会福祉法人敬心福祉会 特別養護老人ホーム千歳敬心苑 施設長

やまぐち あきひろ
山口 晃弘



★生活相談員研修委員会の取り組み★

当委員会は、ソーシャルワークアカデミー、ソーシャルワーク研修会、サービスマナー研修会、リスクマネジメント研修会の4つの委員会で構成されています。また、ソーシャルワークヴィジョン検討小委員会とソーシャルワーク研究検討小委員会という調査分析や課題研究をテーマにした小委員会があります。

★コロナ禍で課題と向き合う生活相談員★

ご利用者を中心に、ご家族、地域、多職種とのマネジメントを行う生活相談員ですが、コロナ禍でその業務はさらに難しさを増しました。ご家族との面会の規制、病院への受診や入院の調整、これまで誰も経験したことのない未曾有の事態に不安が募ります。生活相談員同士の横のつながりは、この委員会の命綱でした。コロナ禍において当委員会も集合はできなくなりましたが、オンラインを使ったブロック会議、幹事会、役員会などが徐々に行われるようになり、希望の光が見え始めています。

★研修会から年度末全体会★

1月31日にリスクマネジメント研修会、2月9日にソーシャルワーク研修会、そして3月12日には年度末恒例の全体会が控えています。コロナに負けず、生活相談員のみなさんの力と勇気になれるよう、役立つ研修を実施していきます。是非ご参加いただきますようお願い致します。



私の心に残るエピソード



社会福祉法人友愛十字会 砧ホーム
小谷野 祐樹

特別養護老人ホームに勤めるようになって、機能訓練指導員として利用者に対して“どうすれば正しいのか”と思うようなことも多くありました。人間ですから同じ疾病があっても身体機能が似ているようで一人ひとり違い、その利用者が抱いている思いも、一人ひとり違ってきます。

ある時、認知症があり身体が捻じれ、四肢もそれぞれ違う角度で拘縮されている利用者がいらっしゃいました。そのままでは安楽に臥床できないため、その方の臥床姿勢を整えると「ありがとう」とおっしゃっていただけました。

またある時は、歩きたいという希望があった利用者がいらっしゃいました。今まで歩けなかった方でしたが少しずつ歩行訓練していくと、そのうち毎日自分から訓練のお誘いに来られるようになり楽しそうにされていました。

利用者は一人ひとり出来ることも考えることが違いますが、“して欲しいこと”を支援することが出来ると「ありがとう」と言葉や表情をくださいます。

“正しい”ケアも必要ですがその根幹にある、その人が出来ること、考えていることを尊重して行くことが大事であると、今まで関わった利用者から教わったことだと思っています。



編集

後記

二〇二二年年末号。今回の特集は、全国老協の平石会長と田中会長が、このコロナ禍の変化をふりかえり、今後の展開や目指す方向についての対談でした。お読みになり、二〇二三年への新たな思いを強くした方も多いのではないのでしょうか。また、今回は「高齢者福祉実践・研究大会」の口演発表について掲載しています。組織で丸となり課題に取り組むことで、利用者の方や地域の方々の喜びにつながる成果が生まれる、それを発表することによって、発表した人も聴いた側も大きな力になるというところに、この大会の素晴らしさを感じます。コロナ禍の中、参加した皆様のチャレンジに大きな拍手を送ります。発信することは、毎日をただ漠然と過ごすことではなく、自分たちの思いをより具体化し明確にできます。今、高齢協では、「東京の介護つてすばらしいグランプリ」の募集を行っています。自分達の思いを文字や写真にすることで、介護の仕事の魅力を白らが再発見し、発信する喜びを感じませんか？ぜひ応募もお待ちしています。二〇二二年が皆様にとって素晴らしい年となりますように。共に健康に気をつけてがんばっていきましょう。

ケアハウス弘陽園

副施設長 都崎 博子

東京の介護で すばらしい グランプリ 2021

介護の魅力を伝えたい
そのあなた!

ぜひ応募してください!

最優秀賞

5万円

高齢者福祉施設における多様な場面にスポットをあて、
介護の仕事の魅力を広くPRする、年に一度のグランプリイベント。
介護の魅力を伝えたい人なら、施設職員・利用者・ご家族などなど、どなたでも応募OK!
優秀作品には豪華賞金・賞品をご用意しております。ぜひ奮ってご応募ください!

応募期間 2021年11月8日(月)~2022年1月10日(月・祝)

募集部門

動画部門 / 写真部門 / コラム部門 / レシピ部門

賞金

最優秀賞 **5万円** / 優秀賞 **3万円** / 入賞 **1万円**

※部門ごとに決定します。
※最優秀賞1作、優秀賞2作、入賞3作の予定です。

応募方法

以下フォームより必要事項をご記入の上、
2022年1月10日(月・祝)までにご応募ください。

<https://forms.gle/EtgfWoHWvZRbDEaP6>



発表

各部門の受賞作品は、WEBサイトにて発表・掲載を行います。

<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

※ページ内の最新情報をご覧ください。

その他、豪華賞品あり!

- ヘラルポニー『アートハンカチ』等、豪華賞品をご用意!
- 「介護ビジョン」など、有名介護情報誌での取材・記事掲載の可能性あり!
詳細は随時WEBでお知らせします!



お問い合わせ

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当

メール: tkykourei@tcsw.tvac.or.jp URL: <https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/>

主催: 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会(情報・広報室) 企画制作: NPO法人Ubdobe

